

スマートハウス・ビル標準・事業促進検討会
第4回普及促進タスクフォース

2018.4.23

スマートホーム委員会 (JEMA)

スマートホーム部会 (JEITA)

① 家電機器等のネットワーク接続普及拡大に向けた対応

JEITA関連製品は、サービスや製品特性の観点からネットワーク接続機能を有する製品が既に主流となっている。一方、JEMA関連製品は、ネットワーク接続で先行しているエアコンでの取り組みを先進企業では他製品に展開し、既にネットワーク接続機器が商品化されつつあり、今後は更なる機種拡大が見込まれる

両団体は、ネットワーク接続製品の普及拡大に向けた検討を推進する

【HEMS普及拡大に向けたエアコン業界の取組 2020年前後】

1. 普及・認知度向上

- 2017年度販売の壁掛型エアコンの約60%が、ネットワーク接続用インタフェースを装備している。2020年販売機種では、ほぼ全機種にネットワーク接続可能なインタフェースを装備する

○販売方法の改善

- 2017年商品で同梱販売されているエアコンは市場の7%程度である。2020年度に向け各社が積極的に拡大を計る(機種別市場普及率:60%~35%)
- 市場拡大が見込めた段階で、同梱より内蔵化を計画するメーカーもある
- ネットワーク接続可能な製品をラインアップし製品カタログ、ホームページ等を活用して商品PRを展開する

2. 省工事化

- ユーザー設置可能なインタフェース搭載を推進します。無線化および簡易初期設定(WPS等)を推進します。内蔵化を進める際には省工事化を含め実現する

3. 価格低廉化

- 通信用アダプタコストは販売数が課題であり、普及が進めば解消される

②家電コントローラとの連携のあり方

(1) 国内外の既存プロトコル(myThings、IFTTT等)、総務省等におけるAPI実証事業の現状調査 ⇒ インターネット協会

(早期のスマートハウス普及のためのクラウド間連携の実現方式・運用形態)

(2) クラウド間連携によって提供されるサービスにおける機器安全の考え方

- 家電製品の中でも、特にエアコンについては電安法対象機器であり、その配慮をする必要がある。現状、エアコンメーカーが提供する遠隔操作は、機器メーカーによるクラウドサービスとエアコンが連携することで、電安法における遠隔操作での安全性を確保している。第三者によるクラウドサービスによる遠隔操作、HEMSを経由した遠隔操作においても、同様の安全性を確保すべきである
- 先ず「電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈の一部改正について(平成25年5月10日)」をベースに関連事業者(インターネット協会、認証機関他)と共に検討する
 - 第三者クラウドサービスからのHEMS経由のエアコン遠隔操作について
 - クラウド間連携の際に担保すべき機能、実現方式、運用形態等について
 - 市場普及のための対象機器の認証付与等の施策について
- その後、JEMA、JEITAが担当する機器について拡大検討する